

# 主体的な学びを創る「単元構想・構成」「授業づくり」をめざして

「課題発見・解決学習」をはじめとした児童の「主体的な学び」を促す授業改善(児童が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的な活動をしていく学習)を、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等の学習において推進する。そのために、これまでの「知識ベース」の学びに加え、「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成をめざした主体的な学び」を促す教育活動の推進をめざして、「本質的な問い」「単元を貫く問い」「個別の問い」を重視し、次のことに留意して単元構想・構成を計画する。

- 「本質的な問い」とは、生きること・学ぶことに係る問いであり、「自分はどう生きるのか」(人としての生き方)「自分は何のために学ぶのか」(学ぶ意義)「〇〇の教科を学ぶ意義は何なのか」(教科の目標)等である。
- 「単元を貫く問い」とは、教科等固有の「見方・考え方」を働かせながら、深く思考したり学習活動に向かったりするような「問い」である。
- 「個別の問い」とは、単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等に係る「問い」である。

## 【教員に求められる力】

- ◎質の高い「問い」を設定する力
- ◎単元を構想する力
- ◎児童の学びをファシリテートする力
- ◎デジタル機器を活用する力 等

「本質的な問い」に基づいて、「単元を貫く問い」と「個別の問い」を立てて単元を構成する。単元を通して児童に考えさせたいことを、「問い」の形で書き表すことは、教師にとっても有効である。「単元を貫く問い」(教科等や単元・題材によっては根学習活動として設定)を示すことで、児童の「学びをファシリテートする」ことも進む。

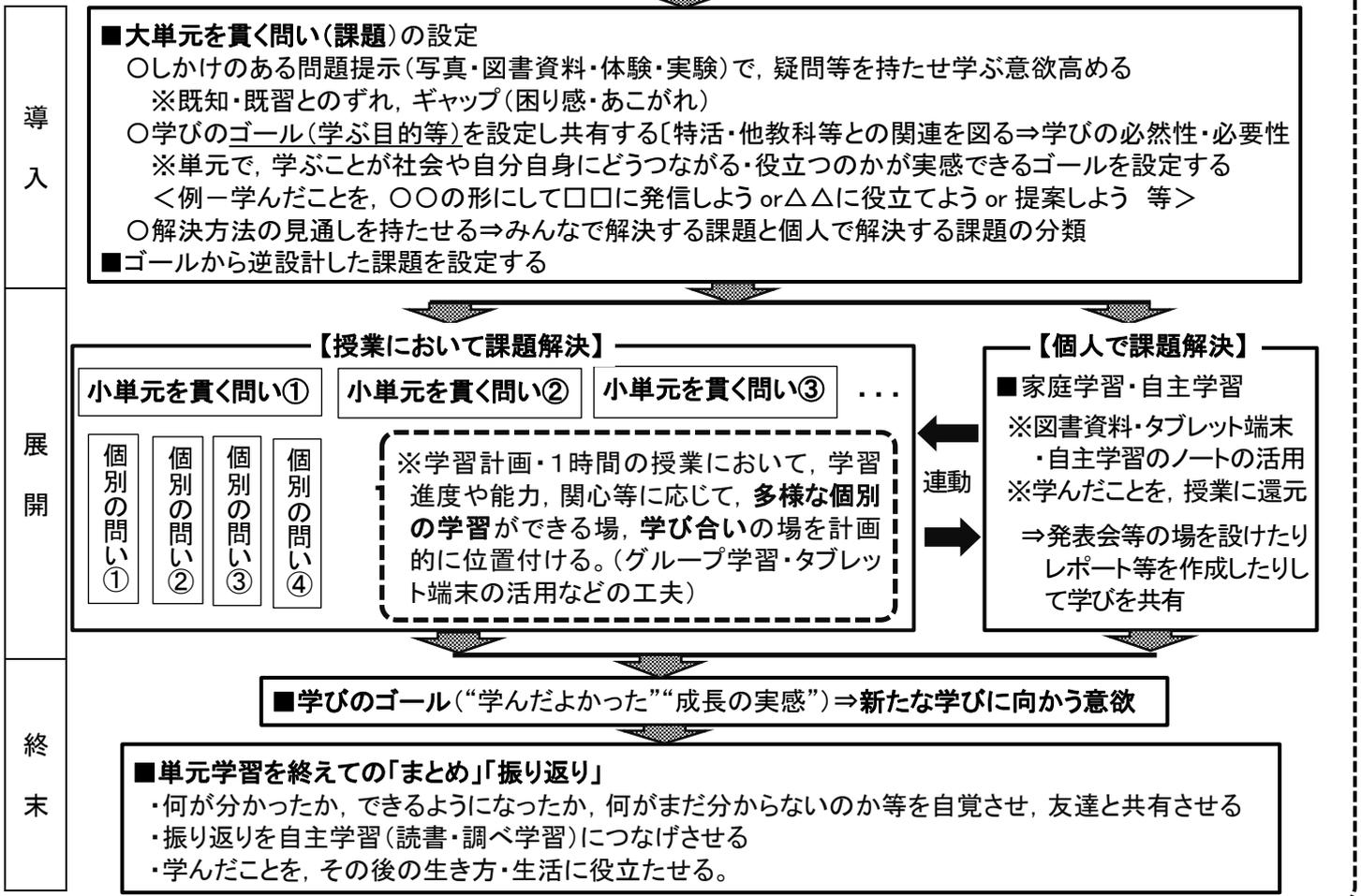
## 【「課題発見・解決学習」の単元計画作成の留意点】

- ◎児童が各教科等の「見方・考え方」を働かせ、深く考えるような単元を貫く「問い」を設定する。
- ◎児童が個々の学習進度や能力、関心等に応じて、多様な学びの選択肢を提供しその場を設定する。
- 目標に迫る「問い」を、児童から引き出す。
- 児童に課題発見の見通しを持たせ、個に応じた学びができる場を設定する。(既存の知識や経験、他教科等既習事項の活用等)
- 学びのゴールを明確にし、児童に課題解決に向かう必然性のある学習活動にする。
- 児童の深い学びを実現するための指導の工夫をする。
- 目標に向かって児童の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージする。

## 【具現化に向けて<イメージ>】

### 《「本質的な問い」の明確化》

<単元でつけたい教科等の学力・本校でめざす資質・能力を、どの場面でのどのように身に付けさせるかの明確化>



## 主体的な学びを目指す八重東型授業モデルA（基本）

＜授業改善のポイント ①導入の工夫 ②小集団学習と学び合いの充実 ③まとめと振り返りの充実＞

	学習の流れ	授業づくりの工夫と留意点	活用できるツール
導入（課題の設定）	<b>○問題を把握する</b> ・問題を読む ・問題に気付く	◆しかけのある問題提示で意欲高める ・実生活や他教科等とのつながり（困り感やあこがれ） ・既習とのずれ、ギャップ ◆児童の気付きで問題整理する	★視聴覚機器 ・電子黒板 ・タブレット端末 ・TV ・教材提示装置 ★具体的操作物 ★写真・表・掲示物 ★図書資料 等
	<b>○見通しをもつ</b> ・思考方法や表現方法について見通しを持つ	◆情報を整理し見通しを持たせる。 ・答えの見通し、解決方法の見通し ◆解決への意思決定を行わせる	
	<b>○課題を設定する</b> 【課題の設定法】 ・指導者と共に考える方法 ・指導者が途中まで示す方法 ・既習事項から考えさせる方法 ・前時に予想させておく方法	◆児童の言葉で設定する ◆ゴールから逆設計した課題を設定する ◆単元導入時には、単元を貫く課題を設定する（他教科との関連を見据えて単元構成を考える）	
展開 学び合い（情報の収集・整理・分析等）	<b>○自力解決をする</b> ・考えの根拠となる資料（図書・データ）や文章を見つける ・自分の言葉で考えを書く	◆タブレット端末機や図書、具体的操作物を活用させ調べさせる。 ◆学習ノートやワークシート、端末機に考えをまとめさせる。 ◆発問を繰り返したり変更したりしない ◆机間指導を行い、個々への支援を行う	★具体的操作物 ★図書資料 ★話し合いの視点 ★思考ツール ★図書資料 ★八重東型コミュニケーションモデル（別紙参照） 【モデル】 ・意見交流型 ・意見焦点型 ・創造型 ・アドバイス型 ・討論型
	<b>○小集団で話し合う</b> ・ペアやグループで話し合いをする ・八重東型コミュニケーションモデルに基づき、話し合いの目的を明確にして話し合う	◆目的や視点を明確にして話し合いをさせる〔目的〕 ・自分の考えを整理する ・新しい考えに出会い、見方を広げる ・多様な考えから最良の一つを選ぶ ・協働して解決する 〔視点〕 ・それぞれの考えやよさの理解、共有 ・共通点・相違点についての理解、共有 ・関連性についての理解、共有 ・比較、検討、考えの一般化	
	<b>○全体で話し合う</b> ・小集団でまとめた考えを全体に伝える ・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら話し合いことで学びを深める	◆タブレット端末等を活用して、考えや思いを共有する場を必要によって設定する。 ◆児童の考えをつなぐ声かけを行う ◆目的や視点を明確にして話し合いをさせる〔留意点は同上〕 ◆指導者は、ファシリテーターとなることで児童の主体的な学びを引き出す	
まとめ・振り返り	<b>○まとめる</b> ・学習の成果を整理する	◆めあてに沿ったまとめをさせる ◆キーワードを使うなどして自分の言葉でまとめる	★振り返りの視点 ・新しく分かったこと ・できるようになったこと ・むずかしかったこと ・まだよく分からないこと ・今後調べてみたいこと ・生活に生かしたいこと など ★タブレット端末の活用 ・アンケート→集約
	<b>○振り返る</b> ・振り返りの視点を基に本時の学習を振り返る ・次時の課題を把握する。	◆視点を明確にして書かせる ◆学習後の自分への気付き ・何が分かったのか、何がまだ分からないのかを自覚させ、友達と共有させる ・振り返りを自主学習（読書・調べ学習）につなげさせる ◆次時の課題を提示し家庭学習・自主学習との連動を図る	

# 主体的な学びを目指す八重東型授業モデルB（「学び合い」重視型）

＜授業改善のポイント ①学び合いからスタート ②主体的な家庭・自主学習との連動＞

	学習の流れ	授業づくりの工夫と留意点	活用できるツール
前時学習	<p>＜学習の終末＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習して、分かったこと・解決できなかったこと、新たな疑問について整理する。（全体・個人）</li> <li>◆解決に向けての見通しと方法、次時の学習課題・内容に確認をする。</li> <li>◆個人で学習する家庭学習・自主学習の内容について、確認をする。</li> </ul>		
<p>《 家庭学習・自主学習（個人での調べ学習・考えをまとめて書く等） 》</p>			
	学習の流れ	授業づくりの工夫と留意点	活用できるツール
導入	<p>○課題の確認をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事前に、個人の一人学びの状況、考えや思いを把握して学習計画に生かす。</li> <li>◆本時の「学び合い」の方法・流れについて確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★視聴覚機器                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板</li> <li>・タブレット端末</li> <li>・教材提示装置 等</li> </ul> </li> </ul>
	<p>○小集団で話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八重東型コミュニケーションモデルに基づき、話し合いの目的を明確にしてグループで話し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆グループ・全体で話し合いをさせる</li> <li>◆目的や視点を明確にして話し合いをさせる</li> </ul> <p>〔目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理する</li> <li>・新しい考えに出合い、見方を広げる</li> <li>・多様な考えから最良の一つを選ぶ</li> <li>・協働して解決する</li> </ul> <p>〔視点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの考えやよさの理解、共有</li> <li>・共通点・相違点についての理解、共有                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連性についての理解、共有</li> </ul> </li> <li>・比較、検討、考えの一般化</li> </ul> <p>【活動例】</p> <p>(1)協働から個人の考えを深める                      (2)協働で新しい深い考えを創り出す</p> <p>＜思考のプロセス＞</p> <p>個人検討⇒グループ協議⇒個人で再構築</p> <p style="text-align: right;">深い考えを創出</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>自分の考え A → 自分の考え A + 他者の考え C → 自分の考え C                              深い新しい考え D</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★話し合いの視点</li> <li>★思考ツール</li> <li>★図書資料</li> <li>★八重東型コミュニケーションモデル（別紙参照）</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【モデル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交流型</li> <li>・意見焦点型</li> <li>・創造型</li> <li>・アドバイス型</li> <li>・討論型</li> </ul> </div>
展開 学び合い（情報の収集・整理・分析等）	<p>○全体で話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小集団でまとめた考えを全体に伝える</li> <li>・自分の考えとの共通点や相違点を考えながら話し合いことで学びを深める</li> </ul>	<p>＜タブレット端末の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を記入する→全員の考えを共有してグループで交流・まとめを作る→グループのまとめを各自のタブレットに分配し再編集する</li> </ul> <p>＜KJ法の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの書き出し→考えの分類→表札を付ける→分類の視覚化→考えをまとめる</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指導者は、ファシリテーターとなることで児童の主体的な学びを引き出す</li> </ul>
まとめ・振り返り	<p>○まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の成果を整理する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆めあてに沿ったまとめをさせる</li> <li>◆キーワードを使うなどして自分の言葉でまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★振り返りの視点                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく分かったこと</li> <li>・できるようになったこと</li> <li>・むずかしかったこと</li> <li>・まだよく分からないこと</li> <li>・今後調べてみたいこと</li> <li>・生活に生かしたいこと 等</li> </ul> </li> <li>★タブレット端末の活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート→集約</li> </ul> </li> </ul>
	<p>○振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの視点を基に本時の学習を振り返る</li> <li>・次時の課題を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆視点を明確にして書かせる</li> <li>◆学習後の自分への気付き                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・何が分かったのか、何がまだ分からないのかを自覚させ、友達と共有させる</li> <li>・振り返りを自主学習（読書・調べ学習）につなげさせる</li> </ul> </li> <li>◆次時の課題を提示し家庭学習・自主学習との連動を図る</li> </ul>	